

ひろば 森友・加計学園が問いかけるもの

衆議院が解散し、報道も選挙モード一色となってきました。自由と平和のための京大有志の会では、緊急企画として、森友・加計学園問題をテーマに今日における政治について少し紐解いてみる勉強会を行うこととしました。どなたでも参加できる勉強会です。ふるってご参加下さい。

日時 2017年10月18日(水) 18:30~20:30

場所 京都大学 文学部新館2階 第3講義室

報告者 池内 了(総合研究大学院大学 名誉教授)

「加計問題が孕む軍事研究—石破4条件と加戸文書から—」

安倍政権は、加計学園を獣医師養成という名目で特別扱いしたといわれていますが、それとともに、さらに感染症対策(危機管理)や生物兵器対策のための拠点とする意図が潜んでいることを、石破4条件と加戸守行文書を材料に考えたいと思います。

駒込 武(京都大学大学院教育学研究科 教授)

「森友学園問題と教育勅語—『教育再生から日本再生へ』?—」

森友学園の経営する塚本幼稚園の子どもたちが暗唱していたおかげで、一挙に有名になった教育勅語。いまから130年近く前につくられた道徳的な教訓がなぜいま登場するのでしょうか?そもそも教育勅語とはどのようなものであり、その何が問題なのでしょうか?ニッポン、スゴイ!を強調する「教育再生」という動きとの関連の中で考えてみたいと思います。

主催 自由と平和のための京大有志の会

自由と平和のための京大有志の会 声明書

戦争は、防衛を名目に始まる。
戦争は、兵器産業に富をもたらす。
戦争は、すぐに制御が効かなくなる。
戦争は、始めるよりも終わるほうが難しい。
戦争は、兵士だけでなく、老人や子どもにも災いをもたらす。
戦争は、人々の四肢だけでなく、心の中にも深い傷を負わせる。
精神は、操作の対象物ではない。
生命は、誰かの持ち馬駒ではない。
海は、基地に押しつぶされてはならない。
空は、戦闘機の爆音に消されてはならない。
血を流すことを貢献と考える普通の国よりは、
知を生み出すことを誇る特殊な国に生きたい。
学問は、戦争の武器ではない。
学問は、商売の道具ではない。
学問は、権力の下僕ではない。
生きる場所と考える自由を守り、創るために、
私にはまず、思いよがた権力にくさびを打ちこまなくてはならない。
(<http://www.kyotounivfreedom.com/>)

